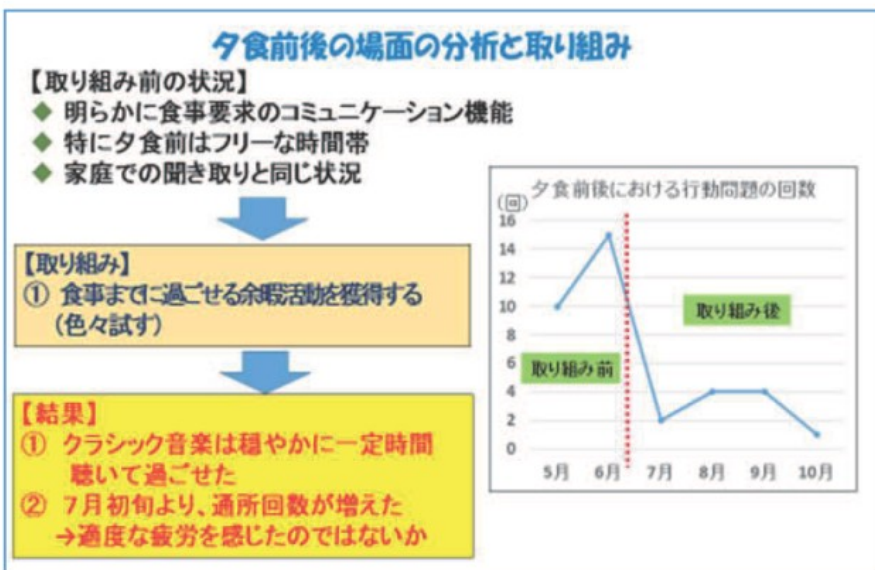
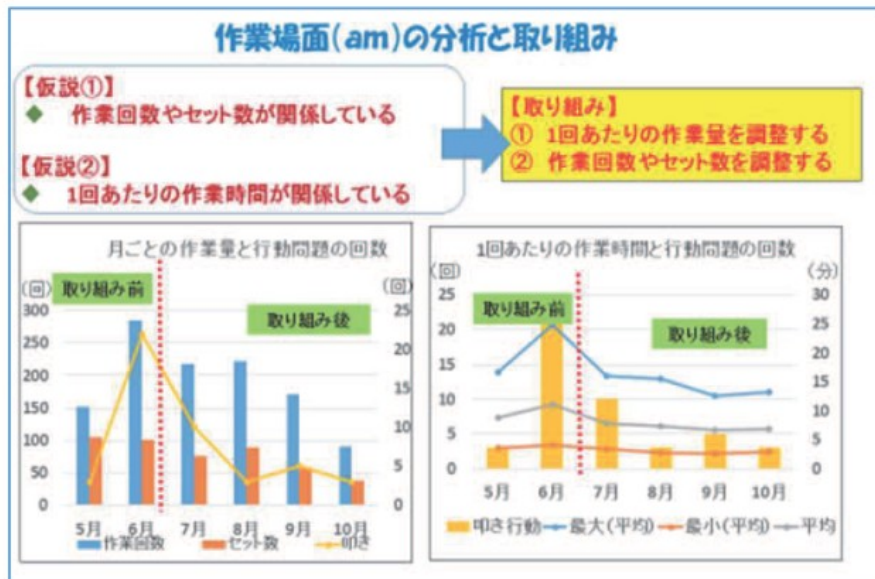


■ 結果と考察



■ 地域への移行支援

移行支援①

- ◆ 細かな引継ぎ書を作成し、情報共有
- ◆ ケース会議で情報共有

引継ぎ書(例)

事前準備・場の設定

スケジュールは、食事やおやつなどの“楽しみ”までの半日程度の活動を写真カードで提示します。散歩など活動の際は、行き先の写真カードなどを提示します。

作業は、1回につき、2~4課題を行います。課題にかかる時間や、難易度で調整します。1回に行う分だけ、置いておきます。

完成させると、ご飯やおやつと交換できるパズルを置いてあります。1回の作業で1ピースをゲット。作業の回数に合わせてピース数になっています。2~3回がベスト。

時間	活動	支援内容
□	休憩	● 来所後は、とりあえず、ソファでゆっくり。
□	休憩 ↓ 作業	● スケジュールの一番上の写真を取って、本人にお渡しします。 ● すぐに、手に取っていただければ、作業に行く順番あり。受け取ってくれなければ、カードを戻して、引き上げます。 ● 5~10分して、パズルやパズルのピースを見せながら、再び、お誘いしてみます。 ● カードを受け取っていただけたら、しつこくならないよう、穏やかに作業を促してみます。
□	作業	● 椅子に座ると、自分の好きな課題から手にとり、取りかかります。 ● 課題が終わったら、自分でもとの3段ボックスに戻します。終わると、支援者に課題を渡そうとすることがあるかもしれませんが、そのときは、3段ボックスを指さして「そっち」と端的に指示を出します。 ● 3段ボックスの課題を全てやり終えたら、パズルのピースを1つ渡します。
□	作業 ↓ 休憩	● パズルのピースを貼り付けたら、スケジュールを指し示し、休憩であることを伝えます。カードを取って、本人にお渡ししてもOK。 ● 休憩の間に、完成した課題を片付け、次の作業課題を、3段ボックスに準備します。あまり早く、準備すると、すぐに作業に移ろうとすることもありますので、時間調整が必要な場合には、時間をおいて、準備します。
□		※上記のような感じで、作業と休憩をパズルが完成するまで繰り返します。

移行支援②

- ◆ か〜む職員を受け入れ先事業所へ派遣
居住の場への移行支援は職員も一緒に宿泊して、支援の引継ぎを実施



■ まとめ

- 24時間の支援体制による行動問題の分析、生活全体の支援の組み立て
 - 行動問題の改善、QOLの向上
 - 退所後の生活、活動の場の確保
 - か〜む退所後は、家庭ではなくグループホーム等で地域生活を送るのが原則。しかし、市内に生活の場を確保することが困難な状況
 - モデル事業の集中支援期間である3ヶ月を過ぎても移行先が見つからないのが現状
- 行動障害に対応できる社会資源、支援者が必要**

か〜むでの24時間の支援体制による行動問題の分析と、支援方法の組み立て、実践の結果、行動問題の改善とQOLの向上に繋がり、A氏は地域の事業所に移行することができました。一方で、モデル事業の集中支援期間である3ヶ月を過ぎても、福岡市内のグループホーム等の資源が不足していることや、強度行動障害者に対応できる支援者が少ない状況等にあることから、移行先が見つからないことも多々あります。

今後、グループホームや通所先などの資源がさらに充実していくことを望むとともに、行動障害に対応できる支援者が増えていくよう、支援の輪を広げていきたいと思っております。

